

ANM インパクトファクターは、ここ数年順調に上昇していましたが、2008年の1.099から、2009年は0.917に低下しました。編集部なにやってんだ、しっかりやれ、とおしかりを受けるかもしれません。しかし、本年の低下はある程度予想されたものであり、それに対する対策は、昨年からですに始められています。つまり、case reportの採択が難しくなっていることや、case report掲載数が減少していることみなさんお気づきだと思います。また、reviewの数が以前より少し増加していることにも気づかれています。これらはすべて編集部によって意図的に行われているものです。さらに、種々のデータは、来年以降再度上昇に転じるであろうということを示しています。つまり、ANMのオンライン契約数（購読数とお考えください）、コンテンツアラート登録者数、論文ダウンロード数などは、著しい増加を示しています。これらの統計値は、世界へのANMの露出度がジャンプアップしていることを示しています。

しかし、ANMには改善すべき点が種々残されています。取り除くべき最大の障壁は、超過ページ代、カラー

ページ代などのエクストラチャージが高いことであると個人的に考えています。たとえばカラーページ代は1頁110,000円！最近の核医学画像は、フュージョン画像などの利用でカラーが必須の感があります。このチャージがある限り、特に海外から優れた論文は投稿されないのであると考えます。最近、韓国核医学会が機関誌を *Nuclear Medicine and Molecular Imaging* として、ANMと同じくSpringerからの出版としました。当然のごとくカラーページチャージなど設定していません。現在の掲載論文のレベルは高くないものが多いですが、かの国の種々のことに国を挙げて取り組む国民性を考えると、国際的な認知度の面においてANMとの立場があつという間に逆転することもあり得ます。ハブ空港としての仁川空港と成田空港・羽田空港の世界的知名度を見れば、この私の感じている危機感がおわかりいただけることかと思えます。

そのようなわけで、編集部として改善すべき点を改善すべく努力を続けます。読者の皆様には、論文の投稿のみならず、査読過程で掲載論文の質を高めることにお力をお貸しいただければ幸いです。（絹谷 清剛）

### 核医学編集委員会

委員長：絹谷 清 剛（金沢大学医薬保険研究域医学系核医学）  
 副委員長：佐々木 雅 之（九州大学大学院医学研究院 保健学部門医用量子線科学分野）  
 委員：石井 一 成（近畿大学医学部 放射線医学講座 放射線診断学部門）  
 犬伏 正 幸（放射線医学総合研究所 分子イメージング研究グループ）  
 河邊 讓 治（大阪市立大学大学院医学研究科 核医学科）  
 河村 和 紀（放射線医学総合研究所 分子認識研究グループ）  
 久慈 一 英（埼玉医科大学国際医療センター 核医学科）  
 下瀬川 恵 久（大阪大学大学院医学系研究科 核医学講座）  
 立石 宇貴秀（横浜市立大学大学院医学研究科 放射線医学講座）  
 橋本 順（東海大学医学部基盤診療学系 画像診断学）  
 東 達 也（滋賀県立成人病センター研究所）  
 渡部 浩 司（大阪大学大学院医学系研究科 医薬分子イメージング学寄附講座）

「核医学」第47巻4号 平成22年11月30日 発行 本号定価 ¥1,800

編集兼発行者 絹谷 清 剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45 (社)日本アイソトープ協会本館3階

発行所 一般社団法人 日本核医学会

振替口座 00180-5-741770 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail: anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ: <http://www.jsnm.org/>

印刷所 株式会社 海川企画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-51-1

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社